

普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言

1 普及指導活動の体制について

(課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む)

特に問題もなく、しっかりとした活動体制がとられている。引き続き、それぞれの地区の生産者や組合、またJA等と、日ごろの活動の中で培った信頼関係に基づいた指導普及活動を続けていただくことをお願いしたい。

関係機関との連携のために普及指導員が間に入ることで、新しい取組みにスムーズに入ることが出来ている。また、事務的な面でも助けられていると感じた。

定期異動などで担当が変更されると、指導とか知識力の違いを感じることもある。同じ作目について、前任者と(後任者が)知識を共有できていればありがたい。

技術普及と組織活動における普及指導事業は重要な役割を担っており、関係機関や団体との連携・役割分担のもと、引き続き体制の維持・強化をお願いしたい。そういう意味では、技術の見える化ができるICTツールを活用し、普及指導員とJA営農指導員のスキルアップに繋がるような取組みをお願いしたい。

以前より行われている体制だけでは、今後の状況に迅速に対応できるのか不安が残る。多くの職員が、得意分野を活かし、横のつながりを持てるような体制作りが必要。

新人研修だけでなく、統括される立場の職員の方々にもコーディネートスキルが望まれる。目的を見定めるための整理が出来るワークショップ形式の研修をされてはどうか。

農業・農村の多面的機能や六次産業化など、普及の役割も広がりを見せている中で、行政的業務量が増大し、人員が十分であるかどうかの検討が必要ではないか。

県全体でみると共通した課題に取り組んでいるケースも少なくないが、相互の連携がとれているかどうかのチェックが必要。ある地域では評価が高く、別の地域ではそうではない場合、その差を分ける要因を明らかにしていくことが必要。

県外で先進的な取り組み事例がみられる課題もある。県外の事例から学ぶことも多いと考えられる。

技術的な知識や情報に加えて、現場でのコーディネート機能が強く求められている。それに関する研修があるようであるが、能力養成のノウハウがあるのかどうか。十分でなければ、早急に詰めて行く必要がある。

集落ぐるみで獣害対策に取り組んだユニークな事例。直接被害がある農業関係者の問題としてだけとらえるのではなく、地域の安全を守るという地域全体の問題として位置づけた取り組みは意義深い。相談者そのものが行動力のあるリーダーであったというこ

とも大きいですが、地域の理解を得るには、第三者の客観的な言葉は不可欠だったはず。かなりの回数、この集落に足を運んだのではと推察する。カメラを設置し、集落に入るイノシシを映像で地域の人に見てもらおうなど地域の人にわかりやすいように説明した点もよかった。

普及指導活動の成果を上げるためには、生産者との本音の意見交換が必須であるが、現場からは「他の仕事に追われて生産者のところに行く時間が取りにくい」といった声を多く聞く。いわゆる「事務作業などは基本的には「従たる業務」である。そこを徹底的に簡素化・省力化を図り、生産者と向き合うという「主たる業務」に十分な時間を費やせるよう、「働き方改革」を進めてもらいたい。

普及指導員には「コンサルテーション」のスキルが必須であるが、そうした教育がほとんどなされていないと思われる。早い段階から、体系的な教育を行うことを提案したい。

2 普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

それぞれの地域の農業の特色を生かした計画であり、目標設定である。特に西尾市の東京オリパラを販路拡大のチャンスとしたGAPの普及は、最初から全農家を対象にせず、やる気のあるリーダー農家を育て、普及活動を展開していった点は、高く評価できる。また、リーダー農家との会談を十分にとって、相互に情報交換を密にとって進めたことは、評価できる。

新城設楽普及課の計画は、山間地に添った計画でよかった。協同農業普及事業の方針については、③環境と安全に配慮した農業の推進については、農業用プラスチックや農薬に関することにも今以上に関わる計画であってほしい。

人員も限られているなか、非常に多くの課題に取り組み、着実に進めている。産地から挙がってくる課題と、県域で取り組むべき課題と両面での課題選定、目標設定をお願いしたい。

課題・対象の選定には、苦勞しているかと思うが、一度女性に絞って選定してはどうか。

愛知県の農業構造にそった課題となっている。その反映でもあるが、水田の土地利用型農業（特に食用米、麦、大豆）が相対的に薄くなっている印象を受ける。

実態をしっかりと分析して、普及の戦略を構想しているかどうかの点検作業をすることが「評価」としては重要であるといえる。目標達成自体よりも、どういった実態分析をもとに、普及活動のターゲットを定め、どのようにアプローチしていくのか、進捗段階と共にそれらをどう変化させていくかなどの振り返りが大切。

課題ごとにみれば、目標設定は3年から5年くらいのスパンであるが、基本計画等に沿って長期のロードマップを描き、そのなかでのひとつのステップとしての目標設定が

重要となる。

目標設定に良くも悪くも手堅さがあるような印象が残る。市場や消費に対する踏み込みが少し弱いように見える。

現地視察の際、別の評価員の方が言われていたが、柵の打ち方や農作業の邪魔にならない設置場所などについてまとめ、他の地域でも今後、同様の対策に取り組めるようになるというと思う。

目標の設定において、「体系の確立」などとしているものもあるが、こうした目標の達成度は何をもって測定しているのか？すべてが数値で設定できるものではないが、できたかできなかったかを明確かつ客観的に判断できる指標が必要である。数値化が難しい場合には、「成果物」や「行動」で設定できるので、そうした方法を研修等でトレーニングしておく必要があると思われる。

3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

新城地区での防獣策を設置する獣害対策では、当初乗り気ではなかった農家に対して、実際のイノシシ等の映像を使って対策の必要性を認識していった方法は、集落ぐるみの獣害対策に移行するうえでは、大きな効果があったと考える。

田原地区の豚熱発生農家の経営再建についても、発生農家に寄り添った経営再建の活動であり、長期にわたる個別の経営事情に応じた資金計画等、高く評価できる。

鳥獣害対策として住民まで関わった成功例には驚きましたが、この例を多くの方に知っていただくことが必要かと思えます。しかし、その一方で長期的にみて柵の管理等、次の世代に繋がっていくことも大事で、それをサポートするのも必要かと思う。

GAP認証を受けるかどうかは別として、取り組むことは非常に大切だと思う。どんな取り組みも地域のキーマンを軸に進めないといけないと思えますので、その苦勞を聞いたかった。

中心になる方の力も大きいと思うが、未来に向けて地域を巻き込み対応したことは、大きな成果であると思う。

現地としっかり向き合っていることがわかる。そのなかで「普及なかりせば」という部分をしっかり出して欲しい。

ときには、国や県の施策や事業・助成が現場にそぐわないこともあるので、現場からの声を上げる役割をしっかり果たして欲しい。政策と現場をつなぐことができるのは普及しかない。

時には表に出て牽引し、時には黒子となって舞台設定をすることが必要であることがわかる。これをどのように指導活動のノウハウとして蓄積していくかが課題となる。

全体的に良好な成果が得られている。しかしながら、アプローチの仕方や活動プロセスをみると成果を急いでいるように見える部分もある。

発生した問題だけではなく、普及アプローチ上の課題を具体的に出していくことも重要と思われる。

知多の稲WCS＝地域の持つ資源を上手にマッチングさせ、地域の課題を克服したい取り組み。具体的な中身はわからないが、持続可能性についても問題提起してあってよかった。

西尾のGAP、東三河の豚熱対策はいずれも、個の経営体のみでは難しい課題。課題を共有し対策を練る必要性を指導員が入ってまとめた。

資料を見る限り、それなりの成果は上がっているように思われるが、そもそもこのレベルでよかったのかどうかは、われわれでは判断できない。現場において「ここまでできれば十分」という実績・成果になっているのか、「レベル設定の妥当性」については一度吟味が必要ではないかと思う。

4 その他

昨年度、外国人による養豚豚の大量盗難等、農産物の盗難被害が深刻。そういった、リスク管理も大きな課題。

全体的に、実態の把握・分析にもっと時間とエネルギーを費やすべきで、それができて地域での問題構造を明らかにでき、普及の計画が具体化するように思える。この部分を深めずに現場での活動を急いでいるようにみえることがある。最初の1年は、実態分析・現状分析に費やして課題の見極めをしてもよいのではないか。

全体的に、直接対象とする作目・品種あるいは組織のみに集中している。課題解決のためには、経営全体（他作目との関係など）や集落構造・地域構造を広くみる必要がある。

農産物の作り方についての取組だけでなく、「新規就農者への対策」や「女性農業者の活躍」などのテーマが増えてきたことは、大いに評価すべきことである。また、今回「地域全体での取り組みをどのように進めていくか」について新城設楽農林水産事務所からの報告があったが、こうしたことにも積極的に取り組む必要があると思われる。その成果を「マニュアル」にまとめて、他の地区にも配布し、県全体で活用できるような取り組みを期待したい。

5 地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

今後、農業を取り巻く環境は、気候の変動による災害、未知の病害虫の対応、生産者の減少や高齢化の進行等、厳しい話題ばかり。若い人たちが、夢を持てるような、儲かる農業は、大事な要素だと考える。

様々な品種の作物や鉢物などに新たに挑戦していく若き農業者に農業で希望が持てるように導いて欲しいと思う（技術面でも経営面でも）。